

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年												2025年							
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~6日	4月 ~13日	4月 ~20日	4月 ~27日	5月 ~4日
カンピロバクター	20	24	38	25	57	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	4	6	5	4 (7)	2
病原性大腸菌	43	61	105	92	79	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	25	25	22	16 (19)	6
腸管出血性大腸菌	0	3	1	0	1	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
サルモネラ	4	4	2	7	5	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	2	1	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	4	16	4	12	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	3	2	2	1	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	8	6	12	6	3	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	1	7	3	2	1
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	2	4	2	2	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	1	2	0	1	2
ノロウイルス	9	20	10	3	4	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	1	2	5	2	1

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報

令和7年第18週(4月28日~5月4日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7		1			3	2	1
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	4	E型肝炎	1					1		
		A型肝炎	2			1		1		
		レジオネラ症	1	1						
五類	76	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1
		劇症溶血性レンサ球菌感染症	1							1
		侵襲性肺炎球菌感染症	2					1		1
		梅毒	8			2		4	1	1
		百日咳	64	9	13	6	2	23	4	7

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市

西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町

東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町

北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年18週(4月28～5月4日)

■コメント

1 伝染性紅斑

定点当たり1.14人の報告があり、全国でも増加傾向です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜ症状で始まり、その後、両頬に紅い発しん(紅斑)が現れます。自然軽快することがほとんどですが、妊娠中に感染すると胎児水腫や流産を引き起こす可能性があるため、妊娠中は、かぜ症状がある方との接触をできる限り避けましょう。

2 百日咳

23件の報告があり、今年の累計は154件となりました。

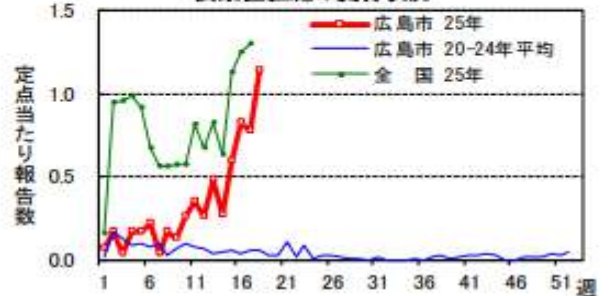
3 RSウイルス感染症

定点当たり0.95人の報告があり、前週に引き続き増加しました。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒や手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり3.45人の報告があり、多い状況が続いています。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

伝染性紅斑の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2217	65.21			小児科	突発性発しん	5	0.23	0.31	
	インフルエンザ	17	0.50	0.66			ヘルパンギーナ	-	-	0.05	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	21	0.62				流行性耳下腺炎	-	-	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	21	0.95	0.50		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	14	0.64	0.32			流行性角結膜炎	7	0.88	0.95	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	3.45	0.74		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	200	9.09	3.26			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	5	0.23	0.10			マイコプラズマ肺炎	8	1.33	-	
	手足口病	1	0.05	0.34			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	25	1.14	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	0.83	0.06	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI) 定点数(内科・小児科)	34
小児科 定点数	22
眼科 定点数	8
基幹 定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	41	60歳代・1人、80歳代・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	30歳代・O血清群不明
4	E型肝炎	1	2	50歳代
4	A型肝炎	1	3	30歳代
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	17	70歳代
5	梅毒	4	46	20歳代・2人、50歳代・2人
5	百日咳	23	154	10歳未満・7人、10歳代・10人、40歳代・4人、60歳代・1人、70歳代・1人